

令和6年度（第4回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和6年11月22日（金） 14時00分～15時45分
 - 2 開催場所 加古川市役所南館 301会議室
 - 3 出席委員 大山委員、日置委員、坂田委員、岡本委員、後藤委員、岸本委員、久保田委員、徳田委員、山尾委員（9名）
 - 4 欠席委員 菅原委員、兼子委員、小倉委員、高橋委員
 - 5 出席職員 小南教育長、松尾教育指導部長、杉本教育指導部次長、尾崎教育指導部参事、井上教育指導部参事、今津教育指導部参事、真鍋教育指導部参事、岡本社会教育課長、久保田加古川西公民館長、福島氷丘公民館長、大西陵南公民館長、田中中央図書館副館長、小浦中央図書館担当副課長、石坂少年自然の家所長、坂本文化財調査研究センター所長、社会教育課（畑副課長、西森担当副課長（兼）学校教育課担当副課長、土屋地域教育係長、今井主査）
 - 6 傍聴者 0名
 - 7 議事要旨
- 開会 14時00分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

（1）社会教育と学校教育の連携について

（陵南公民館、少年自然の家、中央図書館、文化財調査研究センターより説明）

委員

陵南公民館の学習教室の参加人数や時間などについてお伺いしたい。

陵南公民館長

学習教室に参加する小学生の定員を20人としており、陵南中学生のボランティアについても20人の依頼を行っている。時間は、小学生向けということもあり、1時間半を設定しており、途中で休憩を挟み、クイズなどを行っている。

委員

小学生と中学生の両者にとってもいい体験ができていると思う。他にも広がっていけば良いと思う。

委員

各公民館における食育活動の状況についてお伺いしたい。

また、公民館では、教育職や行政職のOBが活躍されており、それぞれの経験を生かした様々な工夫がなされていると感じている。各公民館では、独自性を持ちながら取り組みを進めていただいているが、より進めていただきたいと思う。

また、ボランティア活動に関して、中高生のボランティアをどのように活動に巻き込むかが大きな課題としてある。こういった取り組みが深まっていったらと思う。

陵南公民館長

恵幸川鍋を用いた、トライやるウィークでの食育の取組みについては、近隣の食料品店に材料が販売されていることや指導ボランティアの協力が得られたということもあり実施

することができた。他の公民館でも展開が可能な内容であるとする。

委員

地域の状況や資源を活用し、学校教育との連携につながられているということがよくわかった。

次に、図書館カードの交付について、有効期限が5年であるため、6年生を追加したと説明があったが、2年生から5年生に対しても学校を通じて図書館カードを交付する取り組みは可能か。

中央図書館副館長

図書カードの有効期限は5年であり、6年生の段階で再度図書館カードの交付機会を提供し、中学生になってからも図書館を積極的に利用してほしいとの考えがある。利用されている方は個別に更新されるため、1年生のカード交付数が多く、6年生になると交付数は少なくなる傾向がある。

また、図書カードの配布や集約などは学校の先生方をお願いしており、全学年を対象に毎年実施することは困難ではないかと考えている。各児童が持っている端末を活用し、案内を一斉に送信することも可能である。そういったツールを利用し、周知啓発を進めることができればと考えている。

委員

加古川中学校において、学校教育課に学校図書室内の図書のラベルの貼り直しや本の並び替え、本の登録や除籍作業などを支援いただいている。図書室の充実に資する支援として非常にありがたいと感じている。

学校教育課担当副課長

今年度、両荘みらい学園学校図書館の地域開放サービスを行う職員は、学校教育課兼任で学校司書としての役割を担っており、市内小中学校の図書室支援も担当している。夏休み以降、小中学校等にアンケートを実施したほか、すべての中学校図書室の見学を行った。その結果等を踏まえ、支援が必要と思われる学校から順に少しずつ支援を行っているところである。また、支援に関しては、公共図書館司書の協力を得ながら、実施しているところである。

委員

中学校の図書館は特に十分に活用できていない状況がある。コロナ禍や空調の関係で図書館の充実が後回しになりがちであり、利用が進まない現状がある。今回の支援をきっかけに、良い環境ができ、生徒たちが、時間があれば図書室に行きたいと思えるようになるのではないかと考えている。

委員

小学校での社会教育施設を活用した取り組みとして、特別支援学級において少年自然の家での交流会に参加している。図書館については、2年生が厄神駅から電車を利用して加古川図書館を訪れ、学習を行った。また、1年生の担任教諭が毎月加古川図書館を訪問し、教科に関連する本を20冊ほど借り受け、教室で活用している。電子図書については家庭任せとなっているが、読書の時間にクロームブックで本を読んでいる児童もいる。

公民館については、小学校からの距離が遠いため、公民館を利用する機会はあまりない。

委員

公民館の登録団体はさまざまな分野にわたり活動しているが、近年その数が減少している。登録団体には、囲碁や将棋、卓球などの文化・スポーツ活動を行うものや、市民活動の一環として地図や映像の作成などを手がける団体などがある。

それぞれの団体は得意分野があり、一部の団体は公民館からの依頼を受け、講座で講師を行ったりすることもある。このような形で学校教育との連携を行うことは可能であると考ええる。

委員

各公民館での講座生や登録団体とこどもの関わり状況について報告いただきたい。

加古川西公民館長

夏休みを中心に、子ども向けセミナーを開催しており、登録団体の洋画クラブや将棋同好会など、また食育活動を行ういずみ会が講師となり、さまざまな講座を実施している。将棋に関しては、年間を通じた約 20 回のコースで、継続的に子どもたちが将棋を学べる場を提供している。

氷丘公民館長

今年の夏休みには「親子で氷丘公民館に行こう」という名称で講座を開催した。対象は氷丘小学校と氷丘南小学校で、各児童にチラシを配布して周知を図った。絵画教室や手打ちうどん教室、卓球教室などを登録団体の協力を得て実施した。毎年内容を変えながら継続的に実施している。

陵南公民館長

登録団体である卓球の団体は、小学校のチャレンジクラブのボランティアに参加している。また、公民館が主催する昔遊び講座には、高齢者大学生や高齢者大学OBの方がボランティアとして参加いただいている。

委員

天体観測オンライン授業に先立ち、オンライン観測会を実施したとのことであるが、これは自宅で参加できるのか。

少年自然の家所長

Chromebook を活用した配信により、自宅で、子どもたちが家族と一緒に視聴し、解説を聞いたり、チャットで質問したりしている。Chromebook を有効活用できた事例であると考えている。

委員

公民館などの施設でもオンライン観測会を実施することは可能か。

少年自然の家所長

設備やその場をコーディネートする役割の方の調整が課題として考える。学校以外での活用方法についても今後検討していきたい。

委員

各社会教育施設の学校教育と連携した取り組みは、近隣の小中学校との連携が多いように感じている。ネットを活用すれば、取り組みの幅が広がるので、そういったノウハウを他の社会教育施設にも広げていただきたい。

委員

市内の小学校が、自然学校で少年自然の家を利用していない状況は、どう分析しているか。

少年自然の家所長

ここ5年ほどは市内小学校の自然学校での利用はない状況となっており、ほとんどの学校が鉢伏に行っている状況である。学校から距離が近いことや設備面、食事面、プログラムなどが理由であると感じている。

食事面では、今年度より営業を再開しており、市内の学校が来られても対応が可能である。

プログラムの内容で調整がつけば、少年自然の家の利用も出てくるのではないかなと思う。

委員

公民館は中学校に近い場所に位置しており、公民館の館長には、元教員の方もいらっしゃるため、中学生に対して、夏休みの1週間だけでも補習的な意味合いで勉強を教えることはできないか。

陵南公民館長

夏休みに1階ロビーの学習スペースに来た子どもたちに対して、数学の教師をしていたため、数学を勉強している子どもには声をかけているが、勉強しに来ている子どもたちから自発的に「教えてほしい」と言われることは少ない。

委員

公民館に行けば、数学や英語などを教えてもらえるというような取組みには需要があると思う。館長が教えるのではなくても中学校の先生が公民館に来て教えるようなシステムが作られれば、公民館で勉強した思い出を持ち、大人になったときに再び利用するような流れを作ること、公民館の利用促進にもつながると考えられる。

教育長

教員を派遣することについては、現状の多忙な状況では実施が難しいと感じている。子ども部などにおいて、経済的に厳しい家庭の塾に通えない子どもたちを対象に、公民館を活用して学習支援を行う取り組みがあり、こういった取り組みを拡大していくという形になってくると考える。

委員

電子書籍の利用について小学校を対象に含めてから、どのくらい利用が増えたのか。また、その事業の満足感や評価についてお伺いしたい。

中央図書館担当副課長

昨年7月に電子書籍の読み放題サービスを導入した。導入当初は、ログイン数が約7,000件程度の利用があった。本年度の利用は月平均で延べ約3,000件程度のログイン数となっている。

昨年度途中で対象を中学生にも広げ、中学生向けの資料や小中学生が幅広く読める内容を追加したものの、利用実績の実数としては1,000人から1,100人程度であり、全生徒数の5%から1割未満という状況である。

今後は、資料数の増加を検討するとともに、Chromebookなどを活用した情報発信を行い、このサービスをより活用してもらえよう努めたい。

委員

子どもにとって読書は非常に重要であると考えている。しかし、現在は以前に比べて読書の機会が減少しているのではないかと感想を持っている。このような中で、新たな手法として電子書籍を導入することは、子どもたちにとって読書機会を増やす良い取り組みであると考えている。

ただし、現状では電子書籍の利用が十分に拡大していないように感じるため、さらなる活用に向けた工夫が求められるのではないかなと思う。特に、現代の子どもたちは画面上の読書に対して抵抗感がないため、手軽に読書ができる電子書籍の活用は有効であると考えている。

また、近年は情報が氾濫しているが、読書はそれらの情報とは異なる価値を持っており、読書習慣を広め、子どもたちの読書機会をさらに拡大する取り組みを期待している。

委員

特に、月の観察会などは、家庭では望遠鏡の用意や観測の機会を持つことが難しいため、このような体験ができる機会を設けていただいていることは大事ななことだと思う。

こどもたちに、地域や市内の社会教育施設について知っていただき、またこどもたちを通じて保護者の方にも知っていただくことも大切だと思うため、課題と捉えて取組を進めていただきたい。

公民館の今後の取り組みについて、若者向けの広報活動を強化したいというお話があったが、どの年代に対して、どのような手法で広報活動を進めていこうと考えているのかについてお伺いしたい。

陵南公民館長

対象として想定しているのは、中学生や高校生、小学生を含む学生層であり、リピーターを獲得したいと考えている。陵南公民館では、スタンプカードを導入し、学生たちが繰り返し公民館を訪れるきっかけを作りたいと考えている。また、公民館の入口に配布用のカードを設置し、カードの裏面には QR コードを付けることで公民館のホームページにアクセスでき、簡単に公民館の情報を得られるよう工夫している。

(2) 令和6年度社会教育委員活動計画の変更について

(社会教育課より説明)

(報告事項)

(1) 兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会の参加報告について

(2) 東播磨・北播磨地区社会教育委員協議会総会・研修会の参加報告について

(その他)

○ 閉会 15時45分

副委員長あいさつ

以上